

高知河川国道事務所版

4年生社会科

「自然災害から暮らしを守る」  
指導計画（案）



## 小単元「自然災害からくらしを守る」

### 1. 本小単元の概要

【学習指導要領（平成 29 年 3 月公示）】

社会 第 4 学年

○内容

（3）自然災害から人々を守る活動について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア） 地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。

（イ） 聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

（ア） 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現すること。

○内容の取扱い

（2） 内容の（3）については、次のとおり取り扱うものとする。

ア アの（ア）については、地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害などの中から、過去に県内で発生したものを選択して取り上げること。

イ アの（ア）及びイの（ア）の「関係機関」については、県庁や市役所の働きなどを中心に取り上げ、防災情報の発信、避難体制の確保などの働き、自衛隊など国の機関との関わりを取り上げること。

ウ イの（ア）については、地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるように配慮すること。



我が国の国土ではさまざまな自然災害が起こりやすく、自然災害の発生は、私たちの生命や、生活、産業に大きな影響を与える可能性があることを知る。

自然災害からくらしを守るため、国・県・市などが協力し、普段から災害へ備え（対策や事業を進め）や災害時に対応を行っていることなどを、日高村を流れる仁淀川や過去に地域で発生した風水害を題材に調べ、私たちの生活や産業との関わりについて考える。

地域で想定される災害や災害から人々を守る活動を通じ、自分たちにできることなどを考え、選択・判断ができるようにする。

【捉えさせる内容とねらい】

①我が国の国土ではさまざまな自然災害が起こりやすいこと

■日本の自然災害の概要（全体像）をつかむ。

- ・地震災害、津波災害、風水害（洪水氾濫・土砂災害）、火山災害、雪害、竜巻、かんばつなど

②自然災害から暮らしを守るため、国・県・市などが協力し、災害への備え（対策や事業）や災害時の対応を行っていること

■風水害に着目し、公的機関などが行う平常時の備えや災害時の対応を捉える。

- ・平常時：治水対策、河川パトロール、訓練など
- ・災害時：洪水予報や避難指示等の発令、避難誘導、救助活動、復旧活動など

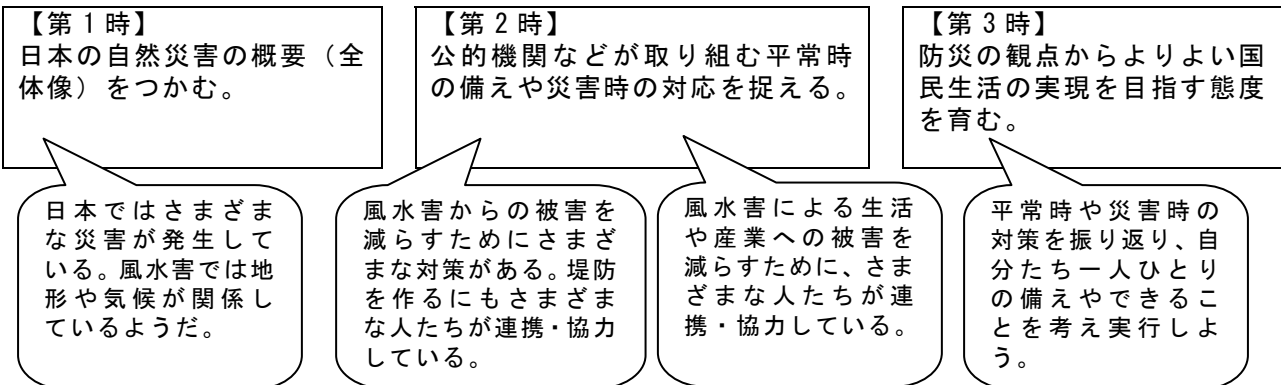
③自分たちにできることなどを考え、選択・判断ができるようにすること

→風水害からさまざまな災害への展開

■防災の観点からよりよい国民生活の実現を目指す態度を育む。

- ・自然災害から地域を守る平常時・災害発生時の国・県・市などの取り組みの振り返り
- ・風水害に加えて、私たちがさまざまな自然災害に備えてできること

## 2.本小単元の構成




### 3.評価の目標

- 関心・意欲・態度** ……自然災害について関心をもち、意欲的に調べることを通して、自然災害から地域を守ることの重要性や国民一人一人が防災意識を高め、協力することの大切さを考えようとしている。
- 思考・判断・表現** ……自然災害について、我が国の国土ではさまざまな自然災害が起こりやすいこと、その被害を減らすために国・県・市などが協力し、平常時の災害への備え（対策や事業）や災害時の対応がおこなわれていることや、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考え、調べたことや考えたことを適切に表現している。
- 観察・技能** ……我が国で起こるさまざまな自然災害や、その被害を減らすための国・県・市などの災害への備え（対策や事業）について、地図や統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用して具体的に調べ、調べた過程や結果をノートや作品にまとめている。
- 知識・理解** ……わが国でおこるさまざまな自然災害からくらしを守るために、国・市などが災害への備え（対策や事業）や災害時の対応を行っていることを理解している。

### 4.指導計画（3時間）

	学習活動・内容	指導のポイント
1	〔自然災害のおこりやすい国土〕 わが国で起こる自然災害について調べ、郷土の仁淀川で風水害が発生した場合を題材に、私たちの生活や産業への影響を考えるとともに、我が国は国土の地形や気候とのかかわりで自然災害がおこりやすいことをつかむ。	我が国で起こった自然災害の発生状況や、発生しやすい理由を、写真や図を活用し学習する。
2	〔自然災害からくらしを守るために〕 郷土の仁淀川を題材に風水害による被害を減らすために、普段から国や市などがさまざまな対策や事業を進めていることをつかむ。 また、風水害が発生した時の関係機関の働きや連携について捉えることができる。	自然災害の一つ、風水害による被害を減らすため、仁淀川で行われている対策や事業を学習する。 公的機関の治水対策だけでは、災害（風水害）から地域を守れないことを気づかせるようにする。 風水害発生時に働く組織や、日ごろから風水害による被害を減らすために働いている組織を知り、多くの人の働きによって安全なくらしが成りたっていることを学習する。
3	〔自然災害に備えてできることを考えよう〕 これまでの学習を振り返り、自分たちの身の回りにも風水害などの自然災害が起こることを認識し、国民一人一人が日頃から防災意識を高めることが大切であることに気づく。	自分たちの住む街にある避難所は普段からの備えといった最低限必要なことを調べながら、風水害などの自然災害が発生した時に備えて自分自身にできることを考える。


# 「自然災害のおこりやすい国土」(1/3)

1.本時の位置づけ	4年生社会「自然災害からくらしを守る」(全3時間)の導入の時間として位置づける。
2.指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然は、私たちのくらしを豊かにしてくれるときもあるが、災害時には私たちのくらしに被害をもたらすこともある。</li> <li>・大きな洪水が発生した際には日高村も浸水してしまう危険性があり、私たちの生活や産業などに多大な影響を及ぼす可能性がある。</li> <li>・それぞれの自然災害には、自然災害が発生する要因として、国土の地形や気候が関係している。</li> <li>・その中で日高村に該当するものを考えてみる。</li> <li>・自然災害には、地震災害、津波災害、風水害(洪水氾濫・土砂災害)、火山災害、雪害、竜巻、かんばつなどがある。</li> </ul>
3.学習方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT(大型TV)の活用</li> <li>・グループ単位での学習</li> </ul>
4.本時のねらい	<p>日本で発生しているさまざまな自然災害について知る。          自然災害の発生と国土の地形や気候との関係を考える。          地形や気候から、日高村の自然災害(風水害)の特性を考える。</p>
5.教科書(東京書籍「新編社会3・4下」)における振替ページ	 <p>教科書「新編社会3・4下」の振替ページ。左側は「くらしを守る」のページで、災害のイメージ写真と「わたしたちのくらしの中で、どのような災害や事故・事件が起きているでしょうか。」という問いかけがある。右側は「ひろげる 風水害からくらしを守る」のページで、宮崎市の台風の被害に関するインタビュー記事と地図が掲載されている。</p>

6.学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書参照）
<p>導入 (10分)</p>	<p>①自然の「豊かな自然」と「自然災害」の様子を比べることを通して、本時のめあてをつかむ。</p> <p>「豊かな自然」 「自然災害」 風水害発生前の地域 風水害発生時 (普段の利活用状況) (後)の地域</p> <p>日本は自然豊かなところ。でも自然災害が起きている。風水害以外にどんな自然災害が起きているのかな？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT (大型 TV) を活用して、自然災害の前後の変化がわかるようにする。</li> <li>自然には、恩恵と被害の両面があることを気づかせる。</li> </ul>	<p>○解説書 P.1～P.4 「豊かな自然と自然災害」 「さまざまな自然災害」</p>
<p>めあて:わたしたちの身近なところや日本で起こる自然さい害は、なぜ起こるのか、わたしたちの生活や産業にどのような影響がでるのか調べよう。</p>			
<p>展開 (30分)</p>	<p>②風水害が起こると、私たちの生活や産業にどんな影響があるかを問いかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>町や家が浸水する。</li> <li>道路や橋が使えない。</li> <li>電気やガスが使えない。</li> <li>農作物などが被害を受ける。</li> <li>工場が止まる。</li> </ul> <p>③自然災害の発生と国土の地形や気候との関わりについて考える。</p> <p>④仁淀川流域での自然災害を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>雨少ないが、短時間で下流部に到達</li> <li>下流部の土地は川よりも低い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仁淀川流域に該当する地形・気条件を考え、雨が降ると短時間で下流部に到達してしまうことに気づかせる。</li> <li>仁淀川流域は、風水害（洪水）が起こると被害が大きくなりやすい地域であることに気づかせる。</li> </ul>	<p>○解説書 P.5 「風水害とは・・・」 ○解説書 P.7～P.12 「我が国で風水害の発生が多い理由」</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>⑤ふりかえりをノートにまとめさせる。 ⑥まとめを伝える。</p>		
<p>まとめ:わたしたちの身近なところや日本では地しんや風水害などさまざまな自然災害が起きている。風水害などの自然災害が起こるとわたし達の生活や産業に大きなえいきょうがでる。これらのさい害は日本の気候や地形などが関係している。</p>			

## 「自然災害からくらしを守るために」(2/3)

1.本時の位置づけ	4年生社会「自然災害からくらしを守る」(全3時間)の展開の時間として位置づける。
2.指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1時間目で、地形と気候が自然災害に深く関わっていることが分かり、仁淀川流域は風水害(洪水)が起こるとその周りで被害が大きくなりやすい地域であることが分かった。</li> <li>・風水害による被害を減らすため、仁淀川では堤防、排水機場など数多くの対策(河川整備)が実施されている。</li> <li>・万が一に備え、日々の管理に関する仕事(河川管理)や、風水害が発生した際に被害を小さくするために働く人々がいること(水防活動、応急復旧など)を紹介する。</li> <li>・風水害の被害を小さくするために働く人や思いを知ること、自らもできることを考えるきっかけを与える。</li> </ul>
3.学習方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT(大型TV)の活用</li> <li>・グループ単位での学習</li> </ul>
4.本時のねらい	<p>自然災害の一つ、風水害の被害を防ぐための対策を知る。          対策の実施のためには、多くの協力が必要であることを考える。          万が一に備えて、河川を管理していることを知る。          風水害が発生した場合の関係する人々の働き(水防活動、応急復旧)を知る。          風水害が発生した場合に私たちの暮らしへの影響を考える。          風水害の被害を最小限にするための仕事の内容について知る。</p>
5.教科書(東京書籍「新編社会3・4下」)における振替ページ	 <p>教科書「新編社会3・4下」の振替ページの内容は、風水害の被害を減らすための対策と、関係する人々の働きについてです。写真には河川の改修工事、排水機場、堤防、水防活動の様子などが写っています。</p>

※日高村洪水ハザードマップは、日高村のHPよりダウンロードすることができます。


※仁淀川の浸水想定区域図は、高知河川国道事務所HPよりダウンロードすることができます。



6.学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書）
導入 (10分)	①前回の授業のふりかえりを行う。 ②仁淀川で過去におこった洪水(平成16年)についての写真を見せる。 ③めあてをつかむ	・ICT(大型TV)を活用して、治水対策がわかるようにする。	○解説書 P.13 「仁淀川で起きた過去の風水害」
めあて：自然さい害の一つである風水害によるひ害をへらすために、どのようなことが行われているのか調べよう。			
展開 (30分)	・子どもたちを班にして、イラスト資料を配布する。  ④風水害による被害を減らすために、どんな人々が働いているか(応急復旧など)調べる。  ⑤風水害からくらしを守るために国がどのような対策(河川整備)を行っているか問いかける。 ● <u>予想される回答</u> ：堤防、排水機場、霞堤、床止、水門、樋門  ⑥堤防などを維持するために、国土交通省はどのようなこと(河川管理)をしているのかを学習する。	・風水害による被害を減らすために公的機関が関わっていることを捉えさせる。  ・堤防以外にも治水対策があることに気づかせる。	○解説書 P.14～P.17 「国や市で行われている治水対策」  ○解説書 P.18 「風水害に備えるための仕事内容」  ○解説書 P.19～P.21 「風水害が発生した際に働く人々」
まとめ (5分)	⑦ふりかえりをノートにまとめさせる。 ⑧まとめを伝える。	・授業を振り返り、多くの人たちの働きで自分たちの安全な生活が保たれていることに気づかせる。	
まとめ：風水害などの自然さい害のひ害を小さくするためにさまざまな人びとが協力して安全を守っている。			

「自然災害に備えてできることを考えよう」(3/3)

1.本時の位置づけ	4年生社会「自然災害からくらしを守る」(全3時間)のまとめの時間として位置づける。
2.指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自然災害からくらし」のまとめとして、これまでの学習の振り返りや、日ごろから防災に関して関心を持つことの大切さについて考える。</li> <li>・2時間目では、風水害などの自然さい害のひ害を小さくするためにさまざまな人びとが協力して安全を守っている人達がいることが分かった。</li> <li>・日高村では、過去、風水害が発生し、今後も起こらないとも限らない。</li> <li>・もしもの時に備えて、自分たちでできることは、風水害に関係して働く人々に連絡することや、避難所の場所や連絡先を知ること、安全な避難の方法を知ること、防災に関する情報を知ること、必要な持ち物を用意しておくこと等がある。</li> <li>・自分たちの住む場所の避難場所等を確認する活動や、自分たちにできることを話し合うことで、自助・共助の意識を高める。</li> <li>・地域の住民で組織された消防団(水防団)や自主防災組織が、人命や財産への被害を防止あるいは軽減する活動を行うことを知る。</li> <li>・風水害以外の自然災害についても同様のことが言え、自分たちでできることを考えることが重要である。</li> </ul>
3.学習方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT(大型TV)の活用</li> <li>・グループ単位での学習</li> </ul>
4.本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風水害時に自分たちができることを考え、万が一に備えて避難所や必要な準備を調べることができる</li> <li>・風水害に限らず、自然災害に備えることが大切であることに気づくことができる。</li> </ul>
5.教科書(東京書籍「新編社会3・4下」)における振替ページ	 <p>The image shows five pages from a textbook. The pages contain various illustrations and text blocks. The first page on the left shows a group of people in a community meeting. The second page has several small illustrations of people in different situations. The third page features a map of a region and a person looking at a computer screen. The fourth page shows a person in a uniform, possibly a firefighter or emergency responder. The fifth page on the right shows a group of people sitting around a table, possibly in a meeting or training session. The text on the pages discusses disaster preparedness, community support, and the role of various organizations like fire brigades and disaster preparedness committees.</p>

6.学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書）
導入 (10分)	①これまでの授業を振り返る。 ・日本は気候条件と地形条件により自然災害が起こっている。 ・自然災害を防止するために、国や県などがさまざまな対策を行っている。 ・自然災害の被害を小さくするためにさまざまな人々が活動し、私たちの安全を守っている。 ②めあてを伝える	簡潔に1～2時間を振り返る。 (1～2時間のそれぞれの時間のまとめを発表させる。)	
めあて：自然災害に備えて自分たちができることは何だろう。			
展開 (30分)	③チェックシートを配布し、普段から災害に備えてできていることを確認する。 ④地域の住民で組織されている消防団（水防団）の役割や対応内容等を学習する。 ⑤班に分け、ハザードマップを使って、避難場所を調べさせる。 ⑥解説書 P.26 の「風水害に対する心がけ・緊急時の心がけ」を配り、災害に備えて、普段から家庭でできることの大切さを伝える。 ⑦風水害が発生した際に自分たちができることを班で話し合い発表する。 ● <u>予想される回答</u> ・避難所に避難する ・テレビやラジオで天気や水位を確認 ・一人で行動しない ⑧風水害以外の災害への備えとの共通点を考え、自然災害には備えが必要であることを気づかせる。	・備えのほとんどが地震などの他の災害にも重要なことに気づかせる。	○解説書 P.22～P.27 「風水害に対する心がけ」 ○解説書 P.28～P.29 「日高村洪水ハザードマップ」 ○解説書 P.30 「仁淀川浸水想定区域図」

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書）
まとめ (5分)	⑨ふりかえりをノートにまとめさせる。 ⑩まとめを伝える。 <div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 5px; margin-top: 10px;">             まとめ：風水害に限らず自然災害に備えて、普段から自分にできる備えを行うことが大切である。           </div>		



こくごとうつうしょう しこくちほうせいびきょく  
国土交通省 四国地方整備局

こうちかせんこくどうじむしょ  
高知河川国道事務所

〒760-0066 高知県高知市六泉寺町96-7

TEL. ●●●●-●●-●●●●

<http://www.skr.mlit.go.jp/kochi/index.html>